

---

平成十年十二月五日（土）

第二五九回 史跡めぐり 資料

\* 建長板碑750年記念史跡めぐり \*

\* 第二回 \*

時は時頼 ところは鎌倉・越谷に  
くらぶるべきもあらねども  
ひとの思いは残りたりけり

---

越谷市郷土研究会

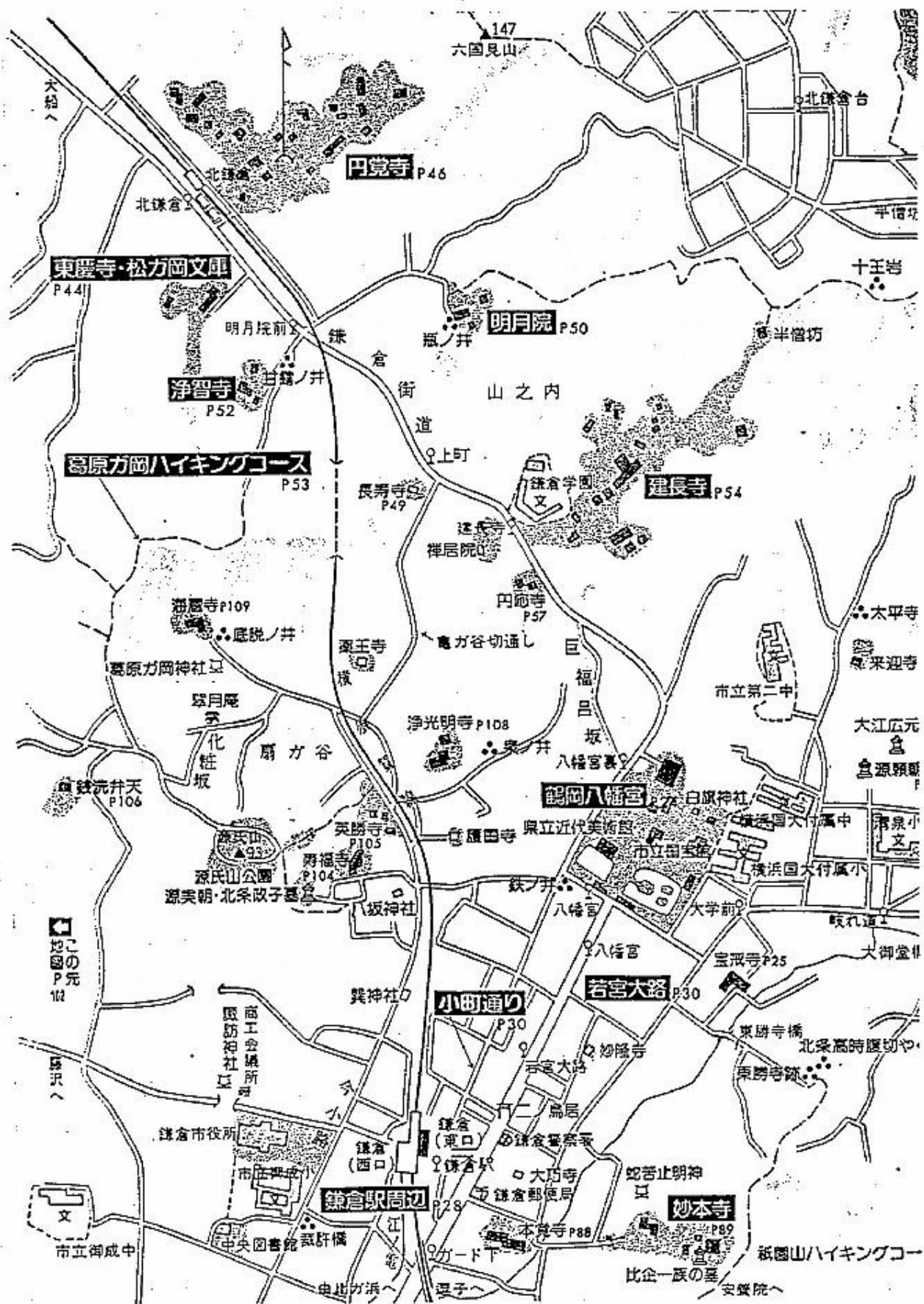
第259回=建長板碑750年記念=史跡めぐり 「鎌倉建長寺ほか」

平成10年12月5日(土) 集合=午前7時30分=JR南越谷駅前  
7時47分南越谷駅発=<武蔵野線>=58分南浦和駅着…8時05分  
発=<京浜東北線>=41分東京駅着…51分発=<東海道線>=9時  
27分戸塚駅着…29分発=<横須賀線>=38分北鎌倉駅着…10時  
~11時(円覚寺・舍利殿拝観)…11時20分建長寺着~12時(建  
長寺諸堂拝観)…12時~1時(座禅体験)…1時~2時(一汁一菜)…  
2時建長寺発…2時15分明月院着…40分明月院発…3時10分力石  
見学・小町通り買い物…3時50分・鎌倉駅<向かって左側>集合…4  
時18分鎌倉駅発=<ホリディ快速>=5時36分北朝霞駅着…40分  
発=6時02分南越谷駅着 解散

参加費 6,500円 案内者 幹事・宮川進



国宝・円覚寺舍利殿／仏舍利を奉安する堂宇



◎政子

源頼朝の妻。

宋西を迎え、寿福寺を建てる。

◎時政

源頼朝の妻となった政子の父。伊豆・狩野川流域の豪族。

初代執権。(1203~1205)

◎義時

政子の弟。

②代執権。(1205~1224)

◎時頼

義時の曾孫。

⑤代執権。(1246~1256)

父・時氏と母・安達景盛の娘(松下禅尼)との子。

三浦氏(泰村・光村)一族を滅ぼす。

關漢道隆を迎え、建長寺を建てる。

明月院の地に最明寺を建てる。のち、息子時宗が禅興寺として再興。

墓はこの明月院の中にある。謡曲「鉢の木」でも知られる。

◎時宗

時頼の息子。

⑧代執権。(1268~1284)

18才で執権となり、文永11(1274)年と弘安4(1281)年の2度の元襲米の難局をのりきった。日蓮を処刑しようとした。

無学祖元を迎え、円覚寺を建てる。

33才で没す。廟所は円覚寺内の仏日庵。

◎覚山尼

時宗の妻。弘安7(1284)年、時宗の臨終のとき出家した。安達泰盛の妹。翌弘安8(1285)年には泰盛など安達家の滅亡にあう。

東慶寺の開山。駆込み寺法をその子・貞時に認めさせた。

◎貞時

時宗の息子。

⑩代執権。(1284~1301)

東慶寺の駆込み寺法を認めた。円覚寺の鐘を寄進。

◎宗政

時頼の息子(三男)。

夫人は宗政の死後、彼と息子・師時を開基として浄智寺を建てる。

◎師時

宗政の子。

⑪代執権。(1301~1311)

北条氏は時宗の孫の高時の時に滅亡。執権は16代・守時まで。

円覚寺

開基北条時宗  
開山無学祖元

山ノ内にある。瑞鹿山円覚興聖禪寺。開基は北条時宗、開山は無学祖元である。臨濟宗円覚寺派本山。

祖元は無学師範の法嗣

開山の無学祖元は字を子元という。無学はその号である。無学師範の法を嗣ぎ、又石溪心月・僊溪広開・康覚智愚を訪い、ついで諸寺に歴住した。徳祐元年(三三三)に蒙古軍が南下し、無学は兵禍を避けて温州能仁寺にいた。翌年元兵が寺に侵入して寺衆みな逃げ隠れたとき、無学はとどまって堂中にいた。元兵が祖元に刀を突きつけてせまってきたとき、自若として「乾坤無地卓孤筇、喜得人空法亦空。珍重大元三尺劍、電光影裏斬春風」という偈を説いたので、元兵はこれに感じて危害を加えずに去ったという話によく知られている。

北条時宗末に名四をもとむ

その頃(弘安元年、二六)日本では關漢道隆が寂して建長寺の住持が空席となった。そこで時宗は弘安元年十二月關漢の弟子無及徳詮・宗英の二人を宋に派遣して、名僧を招聘せしめた(円覚寺文書、北条時宗書状「史料編」二ノ四)。当時幕府が迎えたいと思っていた人は天童山の環溪唯一であったという。この人は無学師範の法嗣であるが、すでに八〇歳に達していたので、代りに首座の無学祖元を派遣することになった。

祖元來朝すついで建長寺に入る

祖元は弘安三年(二七〇)六月に太宰府に着き、八月に鎌倉に入った。時宗は弟子の礼を具えて之を迎え、建長寺に入らしめた。「史料編」二ノ五。祖元時に五四歳、時宗二九歳であった。祖元はすでに在宋のときから、法友である古制によって日本のこと、特に時頼の臨終の時の事などを聞き及んでいたため、東渡を期していたという。

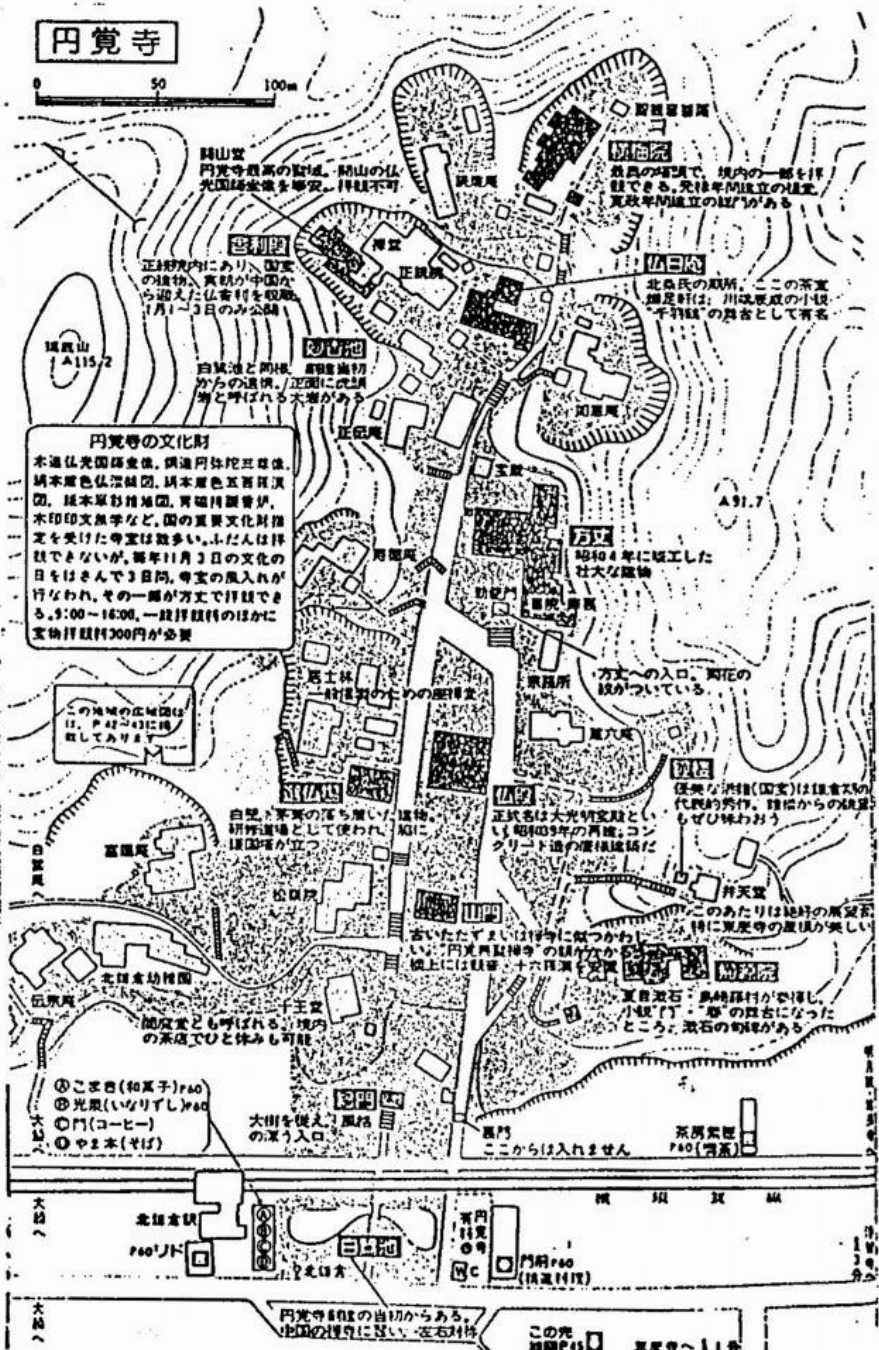
時宗、祖元に

時宗はこれ以後絶えず祖元について参拝した。時宗はさきき大休正念に参すること久しく、「即心即仏、非心非仏」の公案を得て之を工夫していたが、未だ之を釈くことができていなかった。祖元はそこでこれを放下せしめたが、その説く所は諄々として懇切をきわめていた。「弘安録」弘安の役の前夜における時宗の決断が、祖元の激励による所が大きいことは多く指摘されている。

弘安五年十二月円覚寺供養を行う

さて円覚寺は弘安の役の翌年弘安五年(三三三)十二月八日に供養が行われた。これよりさき、弘安元年(二七二)に時宗は道隆を開山として一寺を建立しようとし、道隆と共にその土地を物色したが、いまの円覚寺の地で道隆は一処を指して「ここがいでしょう」というのでここに廟を入れてその地を下して帰った。これから起工して地を穿った地、中から石髓がでてきた。みるとその中に円覚鐘が納めてあった。寺名はこれより起つたという。「建長寺年代記」「本朝高僧伝」「鹿山略記」又開堂の日、白い鹿の群が衆と共に説法を聴聞した。そこで山号を瑞鹿山としたという。「元亨釈書(ほか)また「元亨釈書」には祖元在宋中鶴岡八幡宮の神が祖元にしばしばあらわれて来朝を乞うたとか、鳩がどうしたとかいう話を伝えている。また総門前左右にある白鷺池は、八幡大神が白鷺と化し、道案内をしてこの池にとまったからだという。これらはすべて大寺社の開創にまつわる共通の奇蹟譚の一であるが、円覚寺も亦こうした奇蹟をもってそのはじめを飾ることに、例外ではなかったわけである。

円覚寺開創にまつわる諸伝説



○舍利殿

室町時代に太平寺という尼寺から移されてきた。

三代将軍・源実朝が宋から分けてもらったという仏舍利がおさめられているという。

日本最古の唐様建築で国宝である。

○山門の額「円覚興聖禅寺」は伏見上皇の親筆。

○仏日庵

北条時宗は文永一一(一二七四)年の元軍来襲のとき、二三才。弘安四(一二八一)

年の再度の来襲時には三〇才。精神的負担が身体をむしばんだのか、三三才で没。

その廟所が仏日庵である。



巨福山建長興國禪寺。開山は蘭溪道隆、開基は北条時頼である。小袋坂の北側に勝上塚に向つて北東に切れ込む谷にあって、南西に面している。臨濟宗建長寺派の本山である。

建長寺の地口  
普光開山たり  
如羅陀山心平  
寺

如羅陀山心平

瑞雲谷理茂

新田地蔵

地蔵。地獄に  
ちなむもの多  
し。

龍原地蔵鬼

本尊

下地地蔵

開基道隆

道隆奉願寺つ  
いで菩提寺に  
入る。

建長寺建立の  
地蔵

巨福山の号は巨福呂(小袋)の地名にとつたもの、建長寺のある谷はその開創以前地獄谷といつて犯罪人の処刑場であつたと伝える。

ここに処刑場であつた頃一字の寺院があり、如羅陀山心平寺と号した。後醍醐寺となつて地蔵堂だけが残つていたのを、建長元年に北条時頼がその地をひらいて建長寺を創建するために小袋坂に移したといふ。『鎌倉志』(古風記稿)は「鎌倉大日記」に「建長元年小袋坂地蔵堂建立」とあるがこれであると述べている。建長寺境内古松園(延宝六年道川光圀寄附)に「建長寺」とある。後述)に同筆題より奥の西御内界に近く「地獄谷理茂」と記した所がある。又上の地蔵堂は「東海法橋」の額を掲げる裏門(南外門)の前の道を巨福路坂にかかる手前に之が画かれていた。この堂は巨福呂坂開通前であつたといふが、今はなく、その本尊といふ地蔵菩薩像が建長寺の仏殿内に安置してある。また別に俗伝には、時頼の時代に赤田宗隆門といふ者が罪によつてここで斬られようとした時、大刀が折れ切ることができなかつた。彼の聲の中に蘇つた一十八分の地獄のためであつたので、これを奇として罪を許された。この小僧は心平寺の地蔵の腹中に納めた。後、寺創建の時仏殿本尊の胎内に移したといふ。現在は別に安置してある。この地蔵を俗に新田地蔵といふ。

上の古松園を見る、勝上塚の地蔵堂、わめき十生疎、原田地蔵等々地蔵堂にちなむものが多い。また「鎌倉志」・「風土記稿」の伝える七月十五日の地蔵鬼の行事は、それによつて伝説は信するに足らぬが、地蔵鬼自体は「鎌倉年中行事」(享徳三年)まで遡ることができ、古い行事である事がわかる。参考までに辰原地蔵鬼の伝説を記しておく。昔開山大覚師在世のとき、武者が一騎来て、山門の下で行われる辰原鬼舎がもう終つてゐるのをみて、残念そうに引揚していった。時に大覚師がその有様を見て呼びかえさせてもう一度辰原鬼舎を敷けて座敷させたところ、その武者は、自分は辰原鬼舎の蓋であると告げて感謝して去つていった。爾來當時では毎年七月辰原鬼舎を終了後辰原地蔵鬼といふ行事が行われるといふ。(鎌倉志)

本尊は伝説行作丈六の地蔵菩薩像。丈高い宋風の聖羅座の上に結跏趺坐し裾を左右に垂らした鎌倉地方に多い宋朝彫刻の雅作。仏殿が小さいので天井につかえるような巨像である。堂内には他に尺余の太子地蔵菩薩及びもと心平寺にあつたといふ地蔵尊を安置する。

蘭溪道隆は宋國西蜀の人。成都の大慈寺に於て得度し、諸所を巡回して無準師範、龐訥道沖、北朝居簡等の諸老についたが、得度なく、最後に無明慧性について僧を聞いた。道隆は在宋の頃日本僧泉前寺來迎院院主月翁智鏡に遭つてこの人から日本の事情を聞き、夙くより渡日の志があつたといふ。寛元四年(三三〇)來朝、來迎院に寓した。智鏡は厚く之を遇し、鎌倉に赴くことを勧めた。道隆は鎌倉に来て寿福寺に入ったが、時頼はここから常楽寺に移した。常楽寺と道隆の關係については常樂寺の項に述べるが、建長元年(三三三)建長寺建立事始「聖一年」等による。嘉祿元年(三三三)同五年十一月に竣工して時頼は道隆を開山にした。山号及び本尊については前述したが、寺名は号号にとり、建立の趣旨は上皇帝の方儀を祈り、將軍及び重臣の千秋、天下の泰平を願ひ、下は三代の將軍、二位家(政子)及び一門の冥福をもうというものである。(嘉祿志)

- ビヤクシン 高さ一三メートル。樹齡約七三〇年
- 山門

狸の山門といわれる。山門再建の寄付を集めるため全国に派遣された雲水の中に、建長寺の裏山に住む狸がいた。狸は多くの寄付を得たものの、帰り道で犬に噛み殺されてしまった。僧たちはこの狸の志に報いるために、その金を山門再建の資金に加えたといふ。

僧侶といへば容貌魁偉な巨漢、達磨大師像を思い浮かべるが、この蘭溪道隆(一一二二—一三七八)は、細面で無肩のじつに優男である。この男が三十三歳で北条時頼の招きで宋の西蜀から來日し、鎌倉に嚴格な宋朝禪を確立した。そして、建長寺を創建し鎌倉禪の中心となつたといは信じられぬほどである。

すでに宋西や内閣によつて、秘密兼修のいわば和風の加持祈禱禪は京を中心に広まりはじめていたが、中国の官制禪林の軍隊のような規律に基づき、純粋禪を確立したのは道隆である。綱のように強く鞭のように鋭い禪風がこの頂相國から伝わってくる。

禪では不立文字、以心伝心を本とするので、教えは師資相承マンツマンとし、師の像を頂相と呼び、伝法印可の印として弟子に与える。弟子は忌日に初祖らしいの像を法堂にかけ供養した。この図でも曲承に坐り、右手に警策を持った人物を通して、崇高な礼拝の対象となる禪の境地がみえてくる。人間とは人間以上の世界でしか真に出逢えないものであることが、しみじみ感じられる。(蘭室、鎌倉時代、絹本彩色、一〇五×四六センチ。鎌倉・建長寺蔵)



◎今回の史跡めぐりにつきまして、その趣意をおくみとりのうえ、格別のご配慮をいただきました建長寺様と鎌倉学藝・中川陸様に深い感謝の意を表するものです。

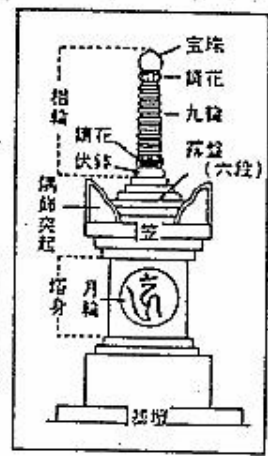
◎第二世住持は元庵普寧。

\*「ゴテル」「ゴタゴタする」の語源か?

\*地蔵菩薩と僧とどちらがうえか?

◎わが國で初めて「禪寺」と称した。山号は巨福呂坂にちなみ、寺号は元号に由来する。扁額「巨福山」は第十世住持の一山一筆の筆。巨の字に筆勢による一点を加えて「巨」とし百貫の価をそえたので、世に百貫点といふ。ケンテン汁は建長汁?

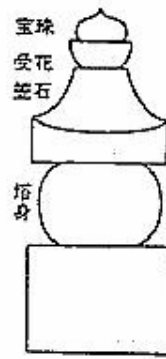
宝篋印塔



宝篋印塔の各部名称

塔身に輪郭をつけ、基礎の下にはっきりした「反花座」を加えるのが関東型の特徴。また、古いものほど、隅飾突起が直立。伏鉢がちいさい。

五輪塔



五輪塔各部名称と意味

五火	字義	塔身	塔基	五大	法字
土用冬夏伏春	虚空無畏喜不生	圓	三角	空輪 風輪 火輪 水輪 地輪	河 石 玉

縦長の地輪。江戸時代は突き出た空輪。反り極端な火輪。縦長の地輪。

過去現在未来にわたる諸仏の全身舍利を奉蔵するために「宝篋印陀羅尼經」を納めた供養塔。鎌倉中期から造立。

地・水・火・風・空・の五大を宇宙の生成要素と説く仏教思想に基づいて平安時代に創始。

平安時代は傾斜のない火輪。樽型に近い水輪。横長の地輪。

鎌倉時代は四隅を直線で切る火輪。球型の水輪。方に近い地輪。

室町時代は反り四隅を斜線で切る火輪。

鎌倉

一 七里が浜のいそ伝い 稲村崎  
名将の 剣投ぜし古戦場

七 歴史は長し七百年 興亡すべて  
ゆめに似て 英雄墓はこけむしめ

八 建長・円覚古寺の 山門高き松風に  
昔の音やこもるらん

(新訂尋常小学唱歌第六学年用…昭和7年)

東海道

一 汽笛一声新橋を はや我汽車は離れたり  
愛宕の山に入りのこる 月を旅路の友として

六 横須賀ゆきは乗換と 呼ばれておるる大船の  
つぎは鎌倉鶴が岡 源氏の古跡や尋ね見ん

九 北は円覚建長寺・南は大仏星月夜  
片瀬腰越江の島も ただ半日の道ぞかし

(大和田建樹作歌「鉄道唱歌」 明治33年刊)

## 明月院 附最明寺・禪興寺

明月院は禪興寺の塔頭

山ノ内、淨智寺の向いの谷にあり、この谷を明月谷という。開基は上杉憲方、開山は密室守敏。もと禪興寺の塔頭である。明月院ははじめ禪興寺の塔頭として成立したものであるから、禪興寺はいま廃寺となっているが、叙述の都合上禪興寺を先にのべる。さらに禪興寺は時頼の建立した最明寺が廃寺となっていたのを時宗が再興したものであるので、最明寺まで溯って書き起さなければならない。

### 最明寺

北条時頼は山ノ内に邸宅をもっていた（『吾妻鏡』建長六年六月条）。この場所はいま最明寺址と伝える明月谷の奥であるという。最明寺は時頼によってその卒の傍にたてられたものであるが、康元年七月にはじめて將軍宗尊親王をむかえて礼仏のことがあり、十一月二十三日に時頼はここで落飾（年三〇歳）、日來の素懷をとげた。戒師は關深道隆であった。（『吾妻鏡』）

### 明月院

開基は上杉憲方、開山は密室守敏である。永徳三年（三三三）足利氏満から憲方にあてた書状その他（『史料編』三ノ三八三・三八四・三八五）によって山内庄岩瀬郷及び常陸國宍太庄内古來その他二郷が憲方から明月院によせられていることがわかる。又憲定、憲基の時に新たに上野・武蔵の中に地を寄せられている（上杉憲定寄進状『史料編』三ノ三八七、同憲基寄進状、三ノ三八八）。上記の古図には仏殿らしい建物の兩翼に廊下によって仏殿と結ばれた各一箇づつの建物があり相称をなしている。そのほかに三つの附属建造物と前面に門と石堀がみえる。

山内上杉氏は戦国時代にいたるまで盛んであったし、明月院の所領は関東にかぎられているから、かなり後までその年貢が絶えることはなかったと思われる。一方憲方の菩提を引うために大石大炊助が建てた武蔵国足立郡の妙楽寺もはやく応永十二年（一四一三）に明月院の本寺となった。（『忠範証文』史料編』三ノ三八七）

### ○第五代執権の北条時頼の墓

### ○瓶（つるべ）の井 鎌倉十井のひとつ

### ○本尊は如意輪觀世音菩薩。那須与一の守り本尊であったと伝えられている。

### ○木造上杉重房坐像は重要文化財

### ○やぐらは鎌倉市内に現存のもののうち最大級。中央は上杉憲方の宝篋印塔

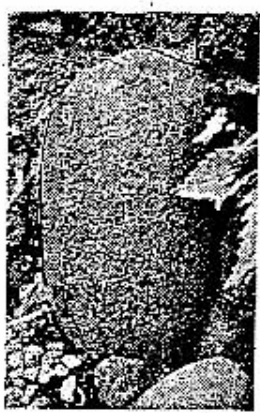
もとは平治の乱で戦死した北鎌倉の豪族・首藤俊通の菩提供養のため、首藤経俊がつくった

### ○なんととっても「あじさい寺」



# 越谷出身の力持ち 三ノ宮卯之助の 力石を発見！

越谷市郷土研究会  
高崎 力さん（平方）



力石の左下に刻まれた「卯之助…」の文字が読める

越谷市郷土研究会（谷岡隆夫会長）理事・高崎 力さんが、岡市出身の江戸時代の力持ち「三ノ宮卯之助」の名が刻まれた力石二個を鎌倉・鶴岡八幡宮門前の鎌倉彫土産物

店群車場ではの小さな稲荷神社でこのほど発見した。高崎さんは、この三ノ宮卯之助についての研究を一月二十五日に開かれる岡市研究会の研究会（越谷コミセン）視察見学、13時30分よりで発表することになっている。三ノ宮卯之助（1805?～1854?）は越谷市三野宮出身で江戸方代表として大阪方代表をもちり力持ち日本人になったとあるという。

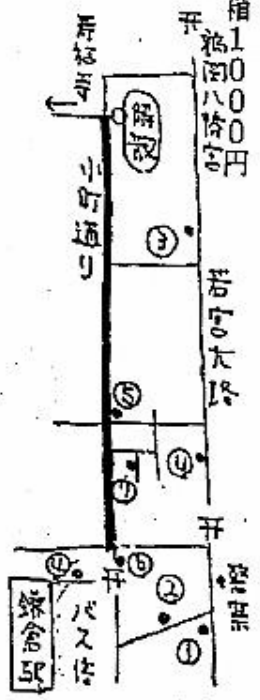
力石は力自慢を耀う石で、持上げた記念に名前を刻むことがある。兵庫県姫路市や川崎、横浜ほか、多くの地方に石が確認されており各地を巡

高崎さんは郷土出身の力持ち・三ノ宮卯之助に興味をいだき研究を続け「有名な神社・寺院の多い鎌倉市にも、ゆかりの力石があるはずだ」との信念から实地調査を行ってきた。この発見は江戸時代に鶴岡八幡宮周辺で見世物興行が行われていたことを示す証拠ともなるもので、大衆芸能史の面からも注目される。

※高崎さん（現・越谷市文化財調査委員）☎04889・76・60007。

## ○若い女性の雑誌「HANAKO」おすすめの小町通り・鎌倉みやげ

- ① 梅花はんぺん と小判揚 井上蒲鉾店 梅花はんぺん1枚130円
  - ② 漬物 香寿庵 赤紫蘇茶漬け300円
  - ③ ワッフル わっふる21 ワッフル250円
  - ④ 鳩サブレー 豊島屋 鳩サブレー5枚430円
  - ⑤ 押し寿司 味くら 鯖寿司1本900円
  - ⑥ 粟大福と百味せんべい 長嶋屋 粟大福130円
  - ⑦ 玉子焼 玉子焼おさわ 玉子焼1箱1000円
- ③と⑦はビル2階



東武朝日 平成10. 1. 24

〔西曆〕 〔年月日〕 〔年令〕

一八〇七	文化四 <sup>丁</sup> 卯年		岩槻藩領三野宮村（現越谷市三野宮二三五）に生まれる
一八二九	文政十二年	22	越谷瓦曾根最勝院にて江戸本□久蔵と力石七十 <sup>メ</sup> 余を持つ 岩槻飯塚神社にて江戸本□久蔵と力石を持つ
一八三〇	文政十三年三月	23	岩槻鉤上神明神社にて雲龍石を持つ
	文政十三年七月		木更津観蔵寺にて力石五十五貫余を江戸□□久蔵と持つ
一八三一	天保二年四月吉日	24	越ヶ谷久伊豆神社にて力石五拾貫目を持つ 横浜綱島諏訪神社にて「池谷石」「飯田石」「さし石」「さし石」を 大木戸仙太郎と持つ
	天保二年四月十五日		
一八三六	天保七年六月吉日	29	卯之助「江戸力持番付」で関脇に位置す
一八三八	天保九年四月吉日	31	信州諏訪大社秋宮にて力石七拾貫を持つ
一八四八	嘉永元年三月	41	出身地三野宮香取神社にて「大磐石」を足にて、「三王石」「指石」を持つ 江戸では三ノ宮卯之助の「牛一頭を乗せた小舟指し」が評判高かった。
	この頃		
一八四九	嘉永二年	42	三野宮香取神社にて「白龍石」を持つ
一八五二	嘉永五年二月	45	桶川寿稻荷神社にて「大盤石」を持つ
一八五四	嘉永七年七月八日	48	三ノ宮卯之助 死亡（死亡地・埋葬地不明）

位牌

〔表〕 到刹清個士 嘉永七年七月八日 不二位

〔裏〕 日本市大力持 三ノ宮卯之助 四十八歳

## 今日あるところの関連略年表

1184	寿永3	頼朝、大河土御厨を勝館に寄進。一の谷で平家敗る	
1192	建久3	頼朝、鎌倉幕府をひらく	
1199	正治1	頼朝没す	
1203	建仁3	北条時政、執権となる	1205 執権義時
1227	嘉禄3	埼玉県江南町・全国最古の板碑 北条時頼生まれる	1224 執権泰時
1245	寛元3	慈光寺梵鐘（物部重光）	1242 執権経時
1246	寛元4	蘭溪道隆来日	1246 執権時頼
1249	建長元	建長板碑・建長寺造立事始	
1255	建長7	建長寺梵鐘（物部重光）	
1256	康元元	北条時頼出家	1256 執権長時
1263	弘長3	北条時頼没す	
1279	弘安2	無学祖元来日	1264 執権政村
1281	弘安4	弘安の役	1268 執権時宗
1282	弘安5	円覚寺創建	
1333	元弘3	鎌倉幕府滅ぶ	
1394	応永元	上杉憲方没す	

### 参考図書

- 鎌倉市史・社寺編 鎌倉市史編さん委員会編 S34. 10 鎌倉市刊
- 雑俎のポケットガイド 鎌倉 S60.1 日本交通公社出版事業局刊
- 歴史散歩事典 井上光貞監修 85. 8 山川出版社刊
- 越谷出身の江戸力持—三ノ宮卯之助 高崎 力著 B10.1 越谷市駐研究会

### 鎌倉駅集合場所<お忘れなく・時間厳守>

ここへ集まってください。

